

タブロー & クラフト 秘密のヴィジョン

Tableau & Craft – Secret Vision



テケ族・トルクメン人《護符入れ(トウマル)》1916/17年
Take Tribe the Turkmen, Amulet holder (tumar) 1916/17



アレクサンダー・カーノルト《静物》1925年
Alexander Kanoldt, Still Life 1925

September 18(Thu)–January 12(Mon/Holiday)

平成26年(2014) **9.18** 木 — 平成27年(2015) **1.12** 月 祝

9:00–17:00 11/7までの金曜日は20:00まで、それ以降の金曜日は19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで

※11/7までの金曜日は20:00まで、それ以降の金曜日は19:00まで開館

※入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日(特別展会期中、祝日及び振替休日は開館)

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円

高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※()内は20名以上の団体



- JR 広島駅より約 1km
- 広島城より約 400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え) 白島線で「縮景園前」下車約 20m
- 広島駅新幹線口から、ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス/ 9:00 ~ 17:30の間、毎時 0分 30分発。)
「広島県立美術館前」下車(白島線沿い)



名勝「縮景園」とともに歩む アートの社
広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL (082) 221-6246

http://www.hpam.jp/

FAX (082) 223-1444

【「タブロー&クラフトー秘密のヴィジョン」について】

絵画と工芸という二つのジャンルに注目！まずは静物画に着目しながら、タブロー（絵画）とテーブル（机）との隠された関係を読み解きます。そして、多彩な素材と技法による工芸作品の意味・役割・表情などの対比の中から、美術のヴィジョンを再考します。

【内容紹介】

○第3室 タブローと静物

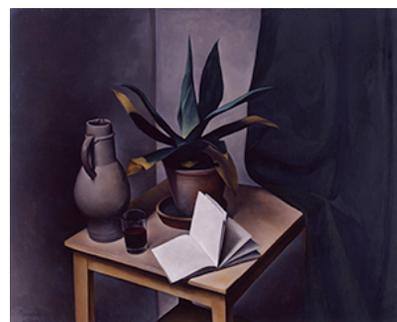
持ち運び可能な絵画（タブロー）には、ときに親しい人たちの間で楽しむために私的な情景が画題として描かれてきたという側面があります。その中でも静物画というジャンルは、画題として食器や食材、花、日用品など、しばしば身近にある品々が選ばれ、近現代においては、とりわけプライベートな性質を強く示しています。

このコーナーでは、静物画というジャンルを通して、画家たちが対象をどのように見つめていたのか探ります。

静物とテーブル

一方で、静物画の多くがタブロー（Tableau）と語源を同じくするテーブル（Table）の上に描かれています。そもそもテーブルという単語は、タイムテーブル（時刻表）という言葉に見られるように、「一覧表」、「索引」といった意味を備えています。少し意味を拡張すれば、静物とはテーブル上のモチーフによって、その空間に住まう人たちの性質を示すものと言えるかもしれません。

このコーナーでは、南薫造《坐せる女》やジョージ・グロッセ《群盗》などテーブルとともに描かれたモチーフから語られるメッセージを読み解きます。



アレクサンダー・カーノルト
《静物》1925年

○第4室 工芸の多彩な魅力を比べて見る

「用」と「美」の間を振れてきた工芸の近現代史。その過程で、伝統を尊崇するとともに反発し、変革と自己表現への強い欲求から「用」を捨てて純粹美術の領域に分け入り、そこでまた、工芸・工芸作家とは何かというアイデンティティーに苦しみ…。このような相克を繰り返すことによって、日本の工芸は磨かれ、より多彩に魅力を増してきたとも言えます。

工芸制作の根っこを成す、このような価値観の振幅に加え、時代・地域・風土・美意識の相違、素材と技法の相乗が、工芸の表現を極めて多彩にしています。このコーナーでは、当館が誇るアジアの工芸作品を交え、工芸作品の多彩な魅力を9つの視点で「比べて見る」ことにより味わってみたいと思います。



板谷波山《青磁鳳耳花瓶》

※関連イベント、媒体掲載用の画像提供について、HPAMコレクションについては、同時期発行の「広島が生んだ芸術家たち—圓鋸勝三・山路商・和高節二」をご参照ください。